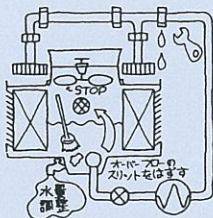


2) クリケミカル[®]A(エース) ニュークリンスタ[®]-HP

●洗浄開始前の調査事項

- ①系の保有水量
- ②スケールの形状
(色、硬さ)確認
- ③系の材質と洗浄経歴
- ④排水の流出先



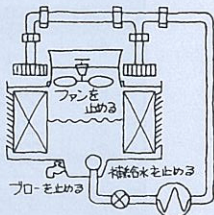
●洗浄剤投入前作業

- ①冷却塔のファンを停止して、ピット内の汚物を除去します。
- ②ストレーナーが汚れている場合は清掃し、再度取り付けてください。
- ③冷却水系回路の水漏れの有無を点検後、薬品投入量に見合う循環水を排水します。



●洗浄剤投入開始前の確認事項

- ①ファンは止まっているか。
- ②ブローは止まっているか。
- ③冷凍機等設備は止まっているか。
- ④補給水は止まっているか。
- ⑤循環ポンプを動かしても冷却塔ピット、または洗浄タンクの水位は低下しないか。



●洗浄剤投入

- ①洗浄剤を保有水量に対して10%投入し、15～30分間(汚れの多い場合は1～2時間延長)循環します。

(注)

一度に全量を投入すると多量に発ガス(酸素)・発泡し液温が急上昇することがありますので、1/3～1/4量投入し様子を見た後に全量を投入してください。

また、循環を停止する場合、入口・出口の両方の弁を閉じると発ガスによる内圧で管の機器が損傷することがありますので必ず一方または、両方の弁を開いておいてください。

原液には異物を混入させないでください。一度取り出した液を原液の残ったポリ缶に戻して混合しないでください。

ポリ缶内の液は1回の洗浄に全量使用するようにしてください。

ポンプ停止時は必ず開放状態にして入口・出口の弁を同時には閉じないでください。

- ②所定時間経過後、全ブロー*するか、またはオーバーブローを開始し循環水が清浄になるまでブローを続けます。汚れは通常24時間程度のオーバーブローで系外へ排出できます。

*全ブローする場合は、

洗浄液排出前に**チェクル[®]KS**試験紙で洗浄剤の主成分の残存濃度を測定し、残存濃度の約1/10量の**クリケミカル[®]K-300**(主成分: 酵素)を添加して循環させてください。排出の際は、**チェクル[®]KS**にて残留過酸化水素が0になったことを確認してから排出してください。なお、**クリケミカル[®]K-300**による残留過酸化水素分解の際に著しい発泡が生じることがあります。発泡をみながら**クリケミカル[®]K-300**を除々に投入してください。

発泡によりポンプのエアが生じることがあります。エア抜きをこまめに行ってください。洗浄剤を分解して、活性汚泥等への薬品の影響をなくしたり、CODを低下することができます。残存薬品濃度が**チェクル[®]KS**試験紙の測定上限値以上の時は、洗浄液を希釈して測定ください。

- ③なお、系内の保有水量が大きい場合1t以上では、残留過酸化水素の分解処理が複雑なためお薦めできません。**スーパーエース[®]FL**をご使用ください。
- ④系内の細管等、流速が著しく低下する場所などは、薬品による付着物の剥離により配管閉塞のおそれがあります。部分洗浄をお薦めします。